

---

# 一能力者 The First Person With Supernatural Power&gt;

Kyura

---

タテ書き小説ネット Byヒナプロジェクト

<http://pdfnovels.net/>

## 注意事項

このPDFファイルは「小説家になろう」で掲載中の小説を「タテ書き小説ネット」のシステムが自動的にPDF化させたものです。この小説の著作権は小説の作者にあります。そのため、作者または「小説家になろう」および「タテ書き小説ネット」を運営するヒナプロジェクトに無断でこのPDFファイル及び小説を、引用の範囲を超える形で転載、改変、再配布、販売することを一切禁止致します。小説の紹介や個人用途での印刷および保存はご自由にどうぞ。

### 【小説タイトル】

とある科学の第一能力者 The First Person  
With Supernatural Power<

### 【Nコード】

N8501P

### 【作者名】

K y u r a

### 【あらすじ】

とある神のせいで死んでしまった主人公。  
彼の転生先は？とある”の世界で地球ができた頃に送ってもらい不老不死になり全ての能力者の始まりになった話です

## The 1st Episode (前書き)

初めましてKyuraです。初作品なので温かい目で見てくれると嬉しいです。

なお、この作品は、オリ主・最強が苦手な人は、『戻る』を選択しても

構いません。では、始まります。

## The 1st Episode

く????sideく

「…………なぜ僕は何も無い場所にいるんだ？」

まずは、落ち着くんだ……クールに、クールにだ。

さて、周りの状況を把握することが大切だ。

右は、面白くないほど何もない。左も何もない。後ろも何もないな。前は、白いおじいさんが土下座をしているな。

上はなぜか青空が広がっているな。ん？さてよ……  
なんか前にいたな。

『おじいさん、何をしているんですか』

「すまん、ワシのせいでお主を死なせてしまった」

『どういうことだ！？詳しく説明しろジジイ』

「おりよ？お主話し方が変わっていないか」

『当然だ、僕を殺した奴に敬意を払うか』

「う……それは、正論だが」

『まあいい、此処はどこだ？』

「此処は現世と冥界のさかいだ」

『そうか……で、今更だがお前誰だ』

「ワシは、お主らの世界で言う神達の頂点の創造神だ」

『その神達の頂点が僕を此処に呼んだ訳はなんだ』

「お主は、ワシが神と知って驚かないのか」

『ああ、驚くだけ無駄だと思ってな』

「そうか・・・まあいい、先ほど言ったようにワシがお主を死なせてしまったから

異世界に転生させるぞ」

『僕がいた世界は、無理なのか？』

「それは、お主お主の世界の理に反してしまうから無理だ」

『僕の行く異世界は、どこだ』

「死なせてしまったワシが言うのも何だが、お主よくすぐに割り切ることができたな」

『まあな』

「お主が行く世界は、とあるの世界だ。お主をワシのせいで死なせてしまったから4つまで

願いを叶えよう」

『なら1つ目は全ての能力の？創造と破壊』ので、2つ目は、不老不死にして

3つ目に地球にできた時に送ってくれ』

「ふむ、了解した」

『最後に、魔術を使っても副作用をなくしてくれ』

「では、地球ができた時に送るぞ」

『頼んだぞ』

「じゃあ、行つて来い」

『どうやって』

「こうやって」

突然足元に穴が開き当然重力に勝てずに落下して僕の意識は無くなった。

そして、気がつくと周りはジャングルだった。そして、目の前には、  
『なぜ恐竜が・・・そういえば地球ができた頃に送ってもらったんだっとな。』

お前には僕の能力の実験体になって貰おうか』

「G y a a a a a a a a a a a a a a !」

『まず、もう1つ自分に能力を追加してそれを上書きして能力を変えらるということだな。』

最初は、瞬間移動 テレポート に変えて』

恐竜の背後に瞬間移動　テレポート　をした。  
そして、瞬間移動　テレポート　を物質変化　マテリアルチェンジ  
に変えて  
能力を使い石を鉄に変えさらに、物質変化　マテリアルチェンジ  
から  
発電能力　エレクトロマスター　に変え、超電磁砲　レールガン  
を撃った。  
超電磁砲　レールガン　は、恐竜に穴をあけ、穴をあけられた恐竜  
は、息絶えた。

## **The 1st Episode (後書き)**

誤字・脱字があれば報告をください。



## **E s t a b l i s h m e n t (前書き)**

前回主人公の紹介を忘れていたので紹介します。

## E s t a b l i s h m e n t

名前 御神 創破 ミカミ ソウハ

身長 175cm

体重 60kg

身体能力 上の中で不老不死。魔術を使ってもリスクはないけど、使える回数が決ま  
っていて、一日に使える

から不老になる。 回数を越えると不老不死

と拒否反応がおき、 不老になつて魔術を使う

死に至る。頭の良さは、

樹形図の設計者

ツリーダイアグラムの  
演算中枢 シリコランダム

を一人で作る程。

容姿 髪は藍色で腰までのロング、目は空色で

顔は女顔。

10人中8人が振り返る美形。

能力名 創造と破壊 クリエイト&amp;ブレイク  
と自身の能力で

追加した能力で、普段は瞬間

移動 テレポートが

ある。

能力の解説                      創造と破壊      クリエイト&amp;ブレークは、  
追加し、その能力を  
自分自身に能力を

更する。  
上書きし能力を変

エイト&amp;ブレークと  
創造と破壊      クリ

力は扱い上、天然になる。  
追加と変更した能

エイト&amp;ブレークは、  
創造と破壊      クリ

測定不能で  
LEVEL・EX

エイト&amp;ブレークで追加した  
創造と破壊      クリ

05のどれにでも可能。  
能力はLEVEL・

現実  
相手の自分だけの

リテーターを分析し  
パーソナルリア

とができ、破壊や変更した  
破壊や変更するこ

できる。なお、一度分析した  
能力を戻すことが

力の分析をせずに破壊や変更を  
能力と同系等の能

することが可能。

他人に能力を与えることも可能

である。

## E s t a b l i s h m e n t (後書き)

追加設定があれば前書きか後書きに書きます。

そして、書きながら「これは、最強過ぎる」

と思いながらも書きました。

内心やってしまった感があるけど、このままやっていきたいと思いません。

今回は、The 2nd Episodeで時間が大幅に進むのでご注意下さい。

## The 2nd Episode

### side 創破

何千年経つと僕を転生させた神からの念で僕がこの世界の神になった事を伝えられた。神曰く、僕は長年この世界に存在した為に、他の神が干渉できなくなってしまったので必然的に僕が神になってしまったのである。

それから、何億年経って冥土返し ヘブンキャンセラー がアレイスターを救い、学園都市ができた。え・・・何故知っているかって？もちろんその場所にいたからな。僕は”黄金の夜明け団”に所属していて、アレイスター抹殺命令に反してアレイスターを助けようと冥土返し

ヘブンキャンセラー をアレイスターの所に案内した。何故”黄金の夜明け団”に入ったかて？・・・だってアレイスターといると暇じゃないからな。

因みに僕はほぼ全て霊装の作成に携わっているから魔術についての知識は誰にも負けない。おっと、話が逸れてしまった

ついに、アレイスターと冥土返し ヘブンキャンセラー と一緒に学園都市を作った。僕は統括副理事長になった。

要は、学園都市の実質No.2である。

それから、数年経過し上条当麻が入学しその2年後に御坂美琴が入学した。

上条は幻想殺し イマジンプレイカー の所為でLEVEL.0 & amp; 不幸な生活をしていた。

一方、御坂は能力開発で発電能力 エレクトロマスター が発現してから努力してLEVEL.1からLEVEL.5になった。そう言えば、僕は追加した能力の質量移動 マスムーブ を主にしている。

因みに僕は今、上条が在籍している高校に転入生としてきている。  
『失礼します。』と言い職員室に入る。すると、

「貴方は昨日の職員会議で言っていた転入生ですかー？」

と、下から聞こえてきた。・・・下から！？

ふと下を見ると身長135cmくらいの子供がいた。

「初めまして、私は月詠小萌です」

『初めまして、僕は御神創破です』

正直、自分の対応能力には驚かされた。

「御神ちゃんは先生のクラスに転入することになったのです」

『そうですか、では宜しくお願いしますよ小萌先生』

「はい、任せるですよ」

そして、教室に着き

「先生が先に教室に入って説明するので、御神ちゃんは後から入ってくるですよ」

と、言い教室に入っていた。

side 創破end

side 上条

小萌先生が教室に入ってきて

「はいはい、それじゃさつさとホームルーム始めますよー。  
えー、出席を取る前にクラスみんなにビッグニュースですー。  
なんと今日から転入生追加ですー。」

おや？とクラスの面々の注目が小萌先生に向く。

「因みにその子は男の子？ですー。おめでとう子猫ちゃん達  
ー、残念でした野郎どもー。」

おおお？とクラスの面々が騒ぎたてる。

「さあ転入生ちゃん、どーぞ」

転入生が入ってきた。その転入生は男子制服を着たかなり  
美人な女の子【・・・】だった。

side上条end

side創破

僕が教室に入ると、クラス中が大喜びした。

『先ほど、小萌先生から説明がありました転入生の御神創破です。  
みなさん宜しく願いします』

と、言う和金髪のグラサン土御門が不思議な顔をした。

まあ、当然である。裏との繋がりがある土御門は学園都市No.2



と同名の奴が転入してきたからである。そんなことを考えていると、

「因みに今日は能力検査 システムスキャン の日なのですー。御神ちゃんは後で職員室に来て下さい」

と、言い残して教室を出ていった。

とりあえず、クラスの間などは仲良くなった。

特にクラスの3バカ デルタフォース の3人と。

それから職員室に行き能力検査 システムスキャン の仕方を聞き、能力検査 システムスキャン をした結果、

「御神ちゃん的能力は強すぎるので設備のいい常盤台中学校に行つて下さい」

とのこと、あらかじめ常盤台中学校の場所を知っていたので質量移動 マスムーブ を使い移動した。

常盤台中学校の前にツインテールの少女がおり、

「貴方が、御神創破さんですか？」

と、聞かれたのでそれを認めるとグラウンドまで引きずられた。なんなのさ一体！？と思っていると気が付けばグラウンドにいた。何かギャラリーがたくさんいた。

そして、引きずってきたツインテールに

『此処で能力を使うのか？』

と、聞き頷いたので使つと

「記録・108m24cm 指定位置との誤差・0.5cm 質量・

91,6kg

総合評価【5】  
「

新たなLEVEL・5が誕生した瞬間であった。









## The 2nd Episode (後書き)

追加

神様兼統括副理事長

質量移動 マスムーブ LEVEL・5

質量移動 マスムーブ

移動限界距離 512・59m

最大質量 2t

自分の周囲102・67m以内に特殊な磁場を作り  
ソナーと同じ役割を果たすので102・67m以内の  
物は触れずに移動させることが可能。

何か最強の奴に最強の武器を持たせたような  
気分になりました。

誤字・脱字があれば、報告下さい

### **The 3rd Episode (前書き)**

今回もなんかすごいぐだぐだです。  
誰か——文才をください——い。



## The 3rd Episode

Side 創破

常「えええー」

と、ツインテールの少女と周りのギャラリーが驚いている間に僕は質量移動 マスムーブ を使い自分の高校の前に戻り職員室に入ると小萌先生が

小「あれー？御神ちゃん帰ってくるのが早いですねー。じゃあ、能力のLEVELを報告するですー」

「一樣、瞬間移動 テレポート 系でLEVEL・5です」

小「えー、もう一度言ってくれませんか？」

「だから、瞬間移動 テレポート 系でLEVEL・5です」

小「本当ですか？」

「本当です」

と、報告し教室に向かった。教室に着くと

当「創破、能力検査 システムスキャン はどうだった？」

と、聞いてきたので

『LEVEL・5だっ「ええええー」た・・・』

当「創破、お前って凄い奴だったんだな」

『当麻なにを今更いつてんだ』

このような会話をしていると小萌先生が入ってきて

小「はい、静かにするですよ。今から臨時全校集会をするから体育館に集合するですー」

と、言い教室を出て行った。

青「なあ、創やんこれって創やんがLEVEL・5になったからやないん？」

『たぶん、そうだろうな』

と言い体育館に向かった。

side創破end

side三人称

全校生徒が体育館に集まり

校「今から、臨時全校集会を始めます。今回、臨時全校集会を開いたのは今回の能力検査

システムスキャン でこの学校で初めてLEVEL・5が現れたことについてです」

「一年A組の御神創破君前に出て下さい。そして、序列を統括理事会副理事長様に発表して頂きます  
副理事長様も前にいらして下さい」

御神だけが前に出た。御神だけだったので教員は慌てていた。

校「副理事長様は前に『あ、副理事長は僕です』いら……」

全「えええええええ」

『何故驚くんですか！？御神創破〓副理事長と思うでしょう』

全「普通は、思いませんよ！」

普通の人はそのままで思いつかないに決まっている。御神は長い年を生き過ぎて常識が無くなってしまった………と思う。

『それは、失礼した。それはさておき、僕の序列は………2位ですね』

「そ………それでは、臨時全校集会を終わります」

そうして、臨時全校集会は終了した。

当&青「創破（創やん）」

当&青「統括理事会副理事長て本当かよ（なん）」

『ああ、嘘じゃない』

当「創破様？少し宜しいで『普通に接してくれ』……………わかった」

当「創破は統括理事会副理事長なんだろ」

『ああ』

当「実年齢は何歳で何で何故この学校を選んだんだ？」

『実年齢はおしえないが、この学校を選んだわけは……………公正なあみだくじの結果だ。』

この時、「統括理事会副理事長がそんな理由で学校を選んでいいのか——」

とクラスの全員の言葉と心が一致した瞬間であった。

### **The 3rd Episode (後書き)**

これから更新スピードが落ちるのでそのところを理解して頂きたいです

誤字・脱字があれば報告を下さい

## PDF小説ネット発足にあたって

PDF小説ネット（現、タテ書き小説ネット）は2007年、ルビ対応の縦書き小説をインターネット上で配布するという目的の基、小説家になろうの子サイトとして誕生しました。ケータイ小説が流行し、最近では横書きの書籍も誕生しており、既存書籍の電子出版など一部を除きインターネット関連に横書きという考えが定着しようとしています。そんな中、誰もが簡単にPDF形式の小説を作成、公開できるようにしたのがこのPDF小説ネットです。インターネット発の縦書き小説を思う存分、堪能<sup>たんのう</sup>してください。

---

この小説の詳細については以下のURLをご覧ください。  
<http://ncode.syosetu.com/n8501p/>

---

とある科学の第一能力者 The First Person With Supernatural Power

2011年1月8日20時03分発行